

生産性と成長力の向上

■九州の将来像

九州圏広域地方計画 日本の成長センター「ゲートウェイ九州」~新しい風を西から~

・広域地方計画は、国土形成計画法に基づき平成27年8月に閣議決定された「国土形成計画(全国計画)」を受け、各広域ブロックの自立的発展に向け、21世紀前半期を展望しつつ、今後概ね10年間の地域のグランドデザインをとりまとめたもの。

■九州圏の3つの将来像

1.日本の成長センター「ゲートウェイ九州」

・世界の成長センターであるアジア地域の成長力を引き込む日本の成長センター「ゲートウェイ九州」となって、日本の経済成長に貢献することを目指しています。



- 2.三層の重層的な圏域構造からなる「元気な九州圏」
- 3.巨大災害対策や環境調和を発展の原動力とする「美しく強い九州」

九州圏広域地方計画ホームページ http://www.qsr.mlit.go.jp/suishin/

九州圏広域地方計画





■将来像の実現に向けた戦略(プロジェクト)

重点的に取り組む5つの戦略とそれを支える12のプロジェクト

- 1.アジアゲートウェイ機能の強化
 - ・アジアとの交流・連携を促進する「ゲートウェイ九州」の形成プロジェクト
 - ・国内各圏域との交流・連携の強化プロジェクト

2.九州圏の活力を創出する交流・連携の促進

- ・九州圏に活力をもたらす交流・連携の促進プロジェクト
- ・九州圏の交流・連携を促進するネットワーク基盤の整備プロジェクト

3.九州圏の基幹産業や地域産業の活性化

- ・九州圏を支える基幹産業の発展と活性化プロジェクト
- ・高度なニーズにこたえる農林水産業や地域産業の新たな展開 プロジェクト

4.九州圏の圏域機能の向上と連携の強化

- ・九州圏の活力源となる高次都市機能の向上と連携の強化プロ ジェクト
- ・都市と農山漁村の連携の強化と生活環境の向上プロジェクト
- ・離島・半島・中山間地域等の活力の維持と向上を図る定住環境 の形成プロジェクト
- ・九州圏の活力を担う人材の地産地活プロジェクト

5.九州圏の安全・安心の確保と自然環境・国土の保全

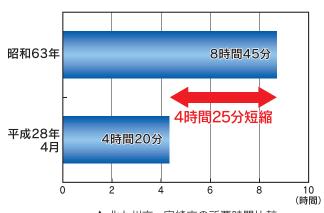
- ・巨大災害等への対応力の強化プロジェクト
- ・環境負荷の軽減と自然環境・国土の保全プロジェクト

■生産性を向上する道路ネットワークの推進

東九州自動車道が北九州市から宮崎市まで直結したことにより、循環型の高速道路ネットワークが構築されました。昭和63年当時と比べると、北九州市から宮崎市までの所要時間が4時間25分短縮されました。引き続き、九州横断軸を整備促進し、生産性を向上する道路ネットワークを構築していきます。



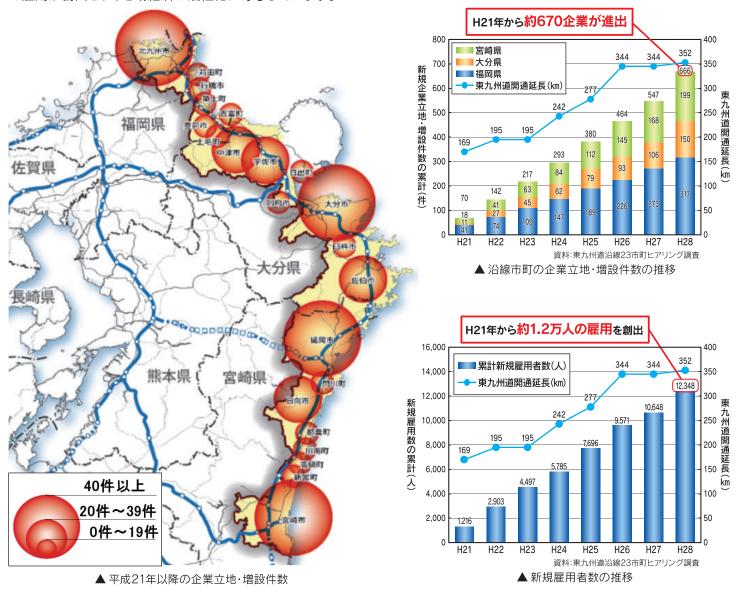




▲ 北九州市~宮崎市の所要時間比較

|道路ネットワーク整備による整備効果

東九州自動車道の延伸や開通に伴い、沿線の市町では平成21年から7年間で約670件の企業が進出しました。新たに約1.2万人 の雇用が創出され、地域経済の活性化に寄与しています。



|地域の拠点を核とする自動運転サービスの社会実験・実装に向けた取組

高齢化が進行する中山間地域における人流・物流の確保のため、「道の駅」など地域の拠点を核とする自動運転サービスの 社会実験・実装を支援しています。

◇道の駅芦北でこぽん

長期社会実験: H31.1.21~H31.3.15



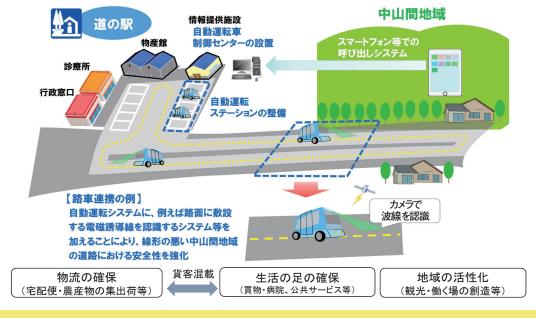
高齢者の移動支援

◇福岡県みやま市山川支所

長期社会実験H30.11.2~H30.12.2



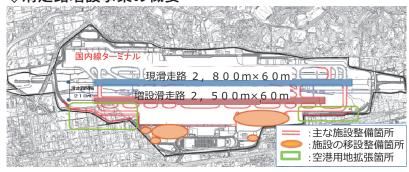
農作物の搬送支援



■航空ネットワークの充実

国内・国際線の需要が大きく伸び続けている福岡空港では、慢性的に発生している航空機混雑を抜本的に解消するため、滑走路増設事業を推進します。

◇滑走路増設事業の概要





■「訪日クルーズ旅客500万人時代」に向けたクルーズ船の受入環境の整備

急増するクルーズ需要やクルーズ船の大型化に対応したクルーズ船の受入環境の整備を推進するとともに、官民連携による 国際クルーズ拠点の形成を図るなど、「訪日クルーズ旅客500万人時代」に向けた施策を推進します。

◇官民連携による国際クルーズ拠点を形成する港湾の状況



■地域産業の発展・国際競争力強化のための港湾整備

深刻化するトラック運転手不足やモーダルシフト需要の増大を背景として、九州に発着するフェリーやRORO船の大型化が進展しています。また、九州の港湾には東アジアとを結ぶ外貿コンテナ航路が充実し、九州の地域産業を支える輸送手段として利用されていますが、コンテナ取扱量の増加に伴う港湾機能の強化が必要となっています。

港湾施設を整備することにより、港湾関連貨物の輸送時間・輸送コストを削減し、地域産業の発展及び国際競争力の強化を図ります。



フェリー・RORO船の荷役(北九州港新門司地区)



コンテナ岸壁の延伸事業(博多港アイランドシティ地区)

■建設業の担い手の確保・育成

近年の激甚化する災害やインフラ老朽化等の課題に対し、最前線で地域の安全・安心を担う「地域の守り手」である「建設業の担い手の確保・育成」が課題です。

そこで、若者が希望を持って入職し安心して働ける建設業を目指し、週休2日をはじめとした働き方改革や工事現場の 環境改善などについて、他の発注機関とも連携し取り組んでいます。

週休2日推進による「働き方改革」や 入札制度の取り組み

週休2日モデル工事の拡大や施工時期の平準化等により、建設業における働き方改革を推進しています。

また、工事の入札契約手続きにおいて、新技術の促進や若手技術者の活用を促す取組を実施しています。



週休2日応援サイト 検索

『週休2日応援サイト』や 『Facebookページ』の開設により 企業の取組を支援しています。

現場見学会等の開催

次世代の建設業における担い手の確保を目指し、学生等を対象とした現場見学会や、建設業で働くお父さんと その家族を招いた「おやじの日」などを開催しています。



建設業協会との共同による現場見学会



現場見学会「おやじの日」の開催

建設現場の環境改善【快適トイレの導入】

建設現場において男女ともに働きやすい環境となるように、女性も安心して利用できる「快適トイレ」を導入しています。



九州ブロック発注者協議会

国、特殊法人等及び地方公共団体の各発注者が一堂に会し、様々な施策の取組状況の共有や推進・強化に向け意見交換を実施しています。

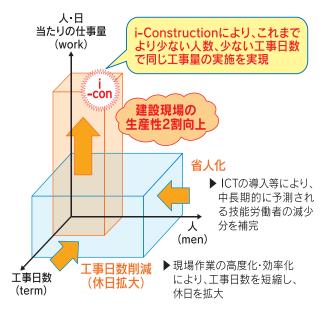


_____ 九州ブロック発注者協議会

■i-Constructionの推進

調査、計画、設計、施工、検査、維持管理の全建設生産プロセスに最新のICT(情報通信技術)を活用した3次元モデルを活用し、自動化・ロボット化・AIなどの新技術を導入することにより、生産性や安全性の向上を図ります。

【生産性向上のイメージ】





3次元データを重機に読み込み、 確認しながら目印(丁張り)無しで 効率的に工事を行います

【ICT土工活用工事の効果】 作業時間縮減効果

ICT施工 111.0 ICT導入で約3割 生産性を向上 従来施工 170.3

150

200

(人日)

50

【BIM/CIM活用のイメージ】



*BIM/CIM は Building / Construction Information Modeling, Management の意味